アカウントを管理します

Astra Control Center

NetApp
March 12, 2024

目次

アカウントを管理します

ローカルユーザとロールを管理します

Astra Control UIを使用して、Astra Control Centerインストールのユーザーを追加、削除、および編集できます。Astra Control UI またはを使用できます "Astra Control API の略" ユーザを管理するには、を実行

LDAPを使用して、選択したユーザの認証を実行することもできます。

LDAP を使用する

LDAPは、分散ディレクトリ情報にアクセスするための業界標準プロトコルであり、エンタープライズ認証に広く使用されています。Astra Control CenterをLDAPサーバーに接続して、選択したAstra Controlユーザーの認証を実行できます。大まかには、AstraとLDAPを統合し、Astra ControlユーザおよびLDAP定義に対応するグループを定義することです。Astra Control APIまたはWeb UIを使用して、LDAP認証とLDAPユーザおよびグループを設定できます。詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- "リモート認証とユーザーの管理には、Astra Control APIを使用します"
- "リモートユーザとリモートグループの管理には、Astra Control UIを使用します"
- "リモート認証を管理するには、Astra Control UIを使用します"

ユーザを追加します

アカウント所有者と管理者は、 Astra Control Center のインストールにさらにユーザーを追加できます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 * アカウント * 」を選択します。
2. [**Users**] タブを選択します。
3. [ユーザーの追加] を選択します。
4. ユーザ名、 E メールアドレス、および一時パスワードを入力します。

   ユーザは初回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。

5. 適切なシステム権限を持つユーザロールを選択します。

   各ロールには次の権限があります。

   - * Viewer * はリソースを表示できます。
   - メンバー * には、ビューア・ロールの権限があり、アプリとクラスタの管理、アプリの管理解除、スナップショットとバックアップの削除ができます。
   - **Admin** にはメンバーの役割権限があり、 Owner 以外の他のユーザーを追加および削除できます。
   - * Owner * には Admin ロールの権限があり、任意のユーザーアカウントを追加および削除できます。
6. メンバーロールまたはビューアロールを持つユーザーに制約を追加するには、 * 制約へのロールの制限 * チェックボックスをオンにします。

拘束の追加の詳細については、を参照してください "ローカルユーザとロールを管理します"。

7. 「 * 追加」を選択します。

パスワードを管理します

Astra Control Center では、ユーザーアカウントのパスワードを管理できます。

パスワードを変更します

ユーザアカウントのパスワードはいつでも変更できます。

手順

1. 画面の右上にあるユーザアイコンを選択します。
2. * プロファイル * を選択します。
3. [* アクション * （ * Actions * ）] 列の [オプション（ Options ）] メニューから、 [* パスワードの変更 * （ * Change Password ）] を選択します
4. パスワードの要件に準拠するパスワードを入力します。
5. 確認のためパスワードをもう一度入力します。
6. 「 * パスワードの変更 * 」を選択します。

別のユーザのパスワードをリセットします

アカウントに Admin ロールまたは Owner ロールの権限がある場合は、自分だけでなく他のユーザアカウントのパスワードもリセットできます。パスワードをリセットする場合は、ログイン時にユーザが変更しなければならない一時パスワードを割り当てます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 * アカウント * 」を選択します。
2. [* アクション * （ * Actions * ）] ドロップダウンリストを選択します。
3. 「 * パスワードのリセット * 」を選択します。
4. パスワードの要件に適合する一時パスワードを入力します。
5. 確認のためパスワードをもう一度入力します。

> 次回ユーザがログインするときに、パスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。

6. 「 * パスワードのリセット * 」を選択します。

ユーザを削除します

所有者ロールまたは管理者ロールを持つユーザは、いつでもそのアカウントから他のユーザを削除できます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 * アカウント * 」を選択します。

2. [* ユーザー *] タブで、削除する各ユーザーの行にあるチェックボックスをオンにします。
3. [* アクション * （ * Actions * ）] 列の [オプション（ Options ）] メニューから、 [* ユーザー / 秒を削除（ * Remove user/s * ）] を選択する
4. プロンプトが表示されたら、「 remove 」という単語を入力して削除を確認し、「 * Yes 、 Remove User * 」を選択します。

結果

Astra Control Center は、アカウントからユーザーを削除します。

ロールの管理

ロールを管理するには、ネームスペースの制約を追加し、ユーザロールをその制約に制限します。これにより、組織内のリソースへのアクセスを制御できます。Astra Control UI またはを使用できます "Astra Control API の略" をクリックしてください。

ロールに名前空間制約を追加します

管理者または所有者ユーザーは、メンバーまたはビューアーの役割に名前空間の制約を追加できます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 * アカウント * 」を選択します。
2. [**Users**] タブを選択します。
3. [* アクション * （ * Actions * ）] 列で、メンバーまたはビューアーの役割を持つユーザーのメニューボタンを選択します。
4. [役割の編集] を選択します。
5. [ロールを制約に制限する *] チェックボックスをオンにします。

   このチェックボックスは、メンバーロールまたはビューアロールでのみ使用できます。[*Role] ドロップダウン・リストから別のロールを選択できます

6. [* 制約の追加 *] を選択します。

   使用可能な制約の一覧は、ネームスペースまたはネームスペースラベルで確認できます。

7. [制約タイプ * （ Constraint type * ）] ドロップダウンリストで、ネームスペースの構成方法に応じて、 [* Kubernetes namespace] * または [* Kubernetes namespace label*] を選択します。
8. リストから 1 つ以上の名前空間またはラベルを選択して、それらの名前空間にロールを制限する制約を構成します。
9. [* 確認 *] を選択します。

   [役割の編集 *] ページには、この役割に選択した拘束のリストが表示されます。

10. [* 確認 *] を選択します。

    [**Account**] ページでは、 [*Role] 列のメンバまたはビューアの役割の制約を表示できます。

制約を追加せずに役割の制約を有効にし、 * 確認 * を選択すると、役割には完全な制限があると見なされます（役割は、名前空間に割り当てられているリソースへのアクセスを拒否されます）。

ロールから名前空間制約を削除します

管理者または所有者ユーザーは、役割から名前空間の制約を削除できます。

手順

1. 「アカウントの管理」ナビゲーション領域で、「 * アカウント * 」を選択します。
2. [**Users**] タブを選択します。
3. [* アクション * （ * Actions * ）] 列で、アクティブな拘束を持つメンバーまたはビューアーの役割を持つユーザーのメニューボタンを選択する。
4. [役割の編集] を選択します。
   - 役割の編集 * （ Edit role * ）ダイアログには、役割のアクティブな拘束が表示されます。
5. 削除する拘束の右側にある * X * を選択します。
6. [* 確認 *] を選択します。

を参照してください。

- "ユーザロールとネームスペース"

リモート認証を管理する

LDAPは、分散ディレクトリ情報にアクセスするための業界標準プロトコルであり、エンタープライズ認証に広く使用されています。Astra Control CenterをLDAPサーバーに接続して、選択したAstra Controlユーザーの認証を実行できます。

大まかには、AstraとLDAPを統合し、Astra ControlユーザおよびLDAP定義に対応するグループを定義することです。Astra Control APIまたはWeb UIを使用して、LDAP認証とLDAPユーザおよびグループを設定できます。

Astra Control Centerでは、リモート認証を有効にしたときに設定されるユーザログイン属性を使用して、リモートユーザを検索して追跡します。Astra Control Centerに表示するリモートユーザのこのフィールドには、Eメールアドレス（「mail」）またはユーザプリンシパル名（「userPrincipalName」）の属性が存在している必要があります。この属性は、Astra Control Centerで認証およびリモートユーザの検索に使用されるユーザ名です。

LDAPS認証用の証明書を追加します

LDAPサーバのプライベートTLS証明書を追加して、LDAPS接続を使用する際にAstra Control CenterがLDAPサーバで認証できるようにします。この処理は、1回だけ、またはインストールした証明書の有効期限が切れたときにのみ実行してください。

手順

1. 「アカウント」に移動します。
2. ［証明書］タブを選択します。
3. 「 * 追加」を選択します。
4. をアップロードします `.pem` クリップボードからファイルの内容をファイルまたは貼り付けます。
5. [**Trusted**]チェックボックスをオンにします。
6. [証明書の追加]を選択します。

リモート認証を有効にします

LDAP認証を有効にして、Astra ControlとリモートLDAPサーバ間の接続を設定できます。

作業を開始する前に

LDAPSを使用する場合は、Astra Control CenterがLDAPサーバに対して認証できるように、Astra Control CenterにLDAPサーバのプライベートTLS証明書がインストールされていることを確認してください。を参照してください LDAPS認証用の証明書を追加します 手順については、を参照し

手順

1. 「*アカウント」>「接続」に移動します。
2. [* Remote Authentication （リモート認証）]ペインで、設定メニューを選択します。
3. 「 * 接続」を選択します。
4. サーバのIPアドレス、ポート、および優先接続プロトコル（LDAPまたはLDAPS）を入力します。

   ベストプラクティスとして、LDAPサーバに接続するときはLDAPSを使用してください。LDAPSに接続する前に、LDAPサーバのプライベートTLS証明書をAstra Control Centerにインストールする必要があります。

5. サービスアカウントのクレデンシャルをEメール形式で入力します（administrator@example.com ）。Astra Controlは、LDAPサーバとの接続時にこれらのクレデンシャルを使用します。
6. [* User Match]セクションで、次の手順を実行します。
   a. LDAPサーバからユーザ情報を取得するときに使用するベースDNと適切なユーザ検索フィルタを入力します。
   b. （オプション）ディレクトリでuser login属性が使用されている場合 `userPrincipalName` ではなく `mail`と入力します `userPrincipalName` [ユーザーログイン属性（User login attribute）]フィールドの正しい属性に入力します。
7. ［グループ一致］セクションで、グループ検索ベースDNと適切なカスタムグループ検索フィルタを入力します。

   正しいベース識別名（DN）と、* User Match および Group Match *の適切な検索フィルタを使用してください。ベースDNは、検索を開始するディレクトリツリーのレベルをAstra Controlに指示し、検索フィルタは、Astra Controlが検索するディレクトリツリーの部分を制限します。

8. [送信] を選択します。

結果

[リモート認証]ペインのステータスは、LDAPサーバーへの接続が確立されると、[保留中]になり、次に[接続済み]になります。

リモート認証を無効にします

LDAPサーバへのアクティブな接続を一時的に無効にすることができます。

> LDAPサーバへの接続を無効にすると、すべての設定が保存され、Astra Controlに追加されたすべてのリモートユーザとリモートグループがそのLDAPサーバから保持されます。このLDAPサーバにいつでも再接続できます。

手順

1. 「*アカウント」>「接続」に移動します。
2. [* Remote Authentication （リモート認証）]ペインで、設定メニューを選択します。
3. [**Disable**] を選択します。

結果

[* Remote Authentication （リモート認証）]ペインのステータスが[* Disabled（無効）]に変わります。すべてのリモート認証設定、リモートユーザ、およびリモートグループが維持され、いつでも接続を再度有効にすることができます。

リモート認証の設定を編集します

LDAPサーバーへの接続を無効にした場合、または*リモート認証*ペインが「接続エラー」状態にある場合は、設定を編集できます。

> 「リモート認証」ペインが「無効」状態の場合、LDAPサーバのURLまたはIPアドレスを編集することはできません。必要です [リモート認証を切断します] 最初に。

手順

1. 「*アカウント」>「接続」に移動します。
2. [* Remote Authentication （リモート認証）]ペインで、設定メニューを選択します。
3. 「 * 編集 * 」を選択します。
4. 必要な変更を行い、* Edit *を選択します。

リモート認証を切断します

LDAPサーバから切断して、Astra Controlから構成設定を削除できます。

> LDAPユーザが切断した場合、セッションはすぐに終了します。LDAPサーバから切断すると、そのLDAPサーバのすべての構成設定がAstra Controlから削除されるだけでなく、そのLDAPサーバから追加されたすべてのリモートユーザとリモートグループも削除されます。

手順

1. 「*アカウント」>「接続」に移動します。

2. [* Remote Authentication （リモート認証）]ペインで、設定メニューを選択します。
3. 「切断」を選択します。

結果

「リモート認証」パネルのステータスが「切断済み」に変わります。リモート認証設定、リモートユーザ、およびリモートグループがAstra Controlから削除される。

リモートユーザとリモートグループを管理します

Astra ControlシステムでLDAP認証を有効にしている場合は、LDAPユーザおよびグループを検索して、承認されたシステムのユーザに含めることができます。

リモートユーザを追加します

アカウント所有者と管理者は、リモートユーザをAstra Controlに追加できます。Astra Control Centerは最大10、000人のLDAPリモートユーザをサポートします。

> Astra Control Centerでは、リモート認証を有効にしたときに設定されるユーザログイン属性を使用して、リモートユーザを検索して追跡します。Astra Control Centerに表示するリモートユーザのこのフィールドには、Eメールアドレス（「mail」）またはユーザプリンシパル名（「userPrincipalName」）の属性が存在している必要があります。この属性は、Astra Control Centerで認証およびリモートユーザの検索に使用されるユーザ名です。

> 同じEメールアドレス（「mail」または「user principal name」属性に基づく）を持つローカルユーザがシステムにすでに存在する場合は、リモートユーザを追加できません。ユーザをリモートユーザとして追加するには、最初にローカルユーザをシステムから削除してください。

手順

1. [**Account**（アカウント*）]領域に移動します。
2. [*Users & groups]タブを選択します。
3. ページの右端で、*リモートユーザー*を選択します。
4. 「 * 追加」を選択します。
5. 必要に応じて、ユーザのEメールアドレスを* Filter by email *フィールドに入力して、LDAPユーザを検索します。
6. リストから1人以上のユーザを選択します。
7. ユーザにロールを割り当てます。

> ユーザとユーザのグループに異なるロールを割り当てると、より権限の高いロールが優先されます。

8. 必要に応じて、このユーザに1つ以上のネームスペースの制約を割り当て、*ロールを制約に制限*を選択して適用します。新しい名前空間制約を追加するには、*制約の追加*を選択します。

ユーザにLDAPグループメンバーシップを使用して複数のロールを割り当てると、最も権限の高いロールの制約だけが有効になります。たとえば'ローカルビューアロールを持つユーザーがメンバーロールにバインドされた3つのグループを結合すると'メンバーロールからの制約の合計が有効になり'ビューアロールからの制約はすべて無視されます

9. 「 * 追加」を選択します。

結果

新しいユーザがリモートユーザのリストに表示されます。このリストでは、ユーザーに対するアクティブな拘束を表示したり、*アクション*メニューからユーザーを管理したりできます。

リモートグループを追加します

複数のリモートユーザを一度に追加するには、アカウント所有者と管理者がリモートグループをAstra Controlに追加します。リモートグループを追加すると、そのグループ内のすべてのリモートユーザがAstra Controlにログインできるようになり、グループと同じロールが継承されます。

Astra Control Centerでは、最大5、000のLDAPリモートグループがサポートされます。

手順

1. [**Account**（アカウント*）]領域に移動します。
2. [*Users & groups]タブを選択します。
3. ページの右端で、*リモートグループ*を選択します。
4. 「 * 追加」を選択します。

   このウィンドウには、Astra Controlがディレクトリから取得したLDAPグループの共通名と識別名のリストが表示されます。

5. 必要に応じて、「共通名でフィルタ」フィールドにグループの共通名を入力してLDAPグループを検索します。
6. リストから1つ以上のグループを選択します。
7. グループにロールを割り当てます。

   選択したロールは、このグループのすべてのユーザに割り当てられます。ユーザとユーザのグループに異なるロールを割り当てると、より権限の高いロールが優先されます。

8. 必要に応じて、このグループに1つ以上の名前空間制約を割り当て、*制約にロールを制限*を選択して適用します。新しい名前空間制約を追加するには、*制約の追加*を選択します。

   ユーザにLDAPグループメンバーシップを使用して複数のロールを割り当てると、最も権限の高いロールの制約だけが有効になります。たとえば'ローカルビューアロールを持つユーザーがメンバーロールにバインドされた3つのグループを結合すると'メンバーロールからの制約の合計が有効になり'ビューアロールからの制約はすべて無視されます

9. 「 * 追加」を選択します。

結果

新しいグループがリモートグループのリストに表示されます。このグループのリモートユーザは、各リモートユーザがログインするまで、リモートユーザのリストに表示されません。このリストでは、*アクション*メニューからグループの詳細を表示したり、グループを管理したりできます。

通知を表示および管理します

アクションが完了または失敗すると、 Astra から通知が表示されます。たとえば、アプリケーションのバックアップが正常に完了した場合に通知が表示されます。

これらの通知は、インターフェイスの右上から管理できます。

手順

1. 右上の未読通知の数を選択します。
2. 通知を確認し、 [* 既読としてマークする *] または [すべての通知を表示する *] を選択します。

   [すべての通知を表示する *] を選択した場合は、 [通知] ページがロードされます。

3. [* 通知 *] ページで、通知を表示し、既読としてマークする通知を選択し、 [* アクション *] を選択して、 [* 既読としてマークする *] を選択します。

クレデンシャルを追加および削除します

ONTAP S3 、 OpenShift で管理される Kubernetes クラスタ、未管理の Kubernetes クラスタなどのローカルプライベートクラウドプロバイダのクレデンシャルを、お客様のアカウントにいつでも追加、削除できます。Astra Control Center は、これらのクレデンシャルを使用して、クラスタ上の Kubernetes クラスタとアプリケーションを検出し、ユーザに代わってリソースをプロビジョニングします。

Astra Control Center のすべてのユーザーが同じ資格情報セットを共有することに注意してください。

クレデンシャルを追加する

クラスターの管理時に、 Astra Control Center に資格情報を追加できます。新しいクラスタを追加してクレデンシャルを追加する方法については、を参照してください "Kubernetes クラスタを追加"。

> 独自のkubeconfigファイルを作成する場合は、その中に* 1つの*コンテキスト要素のみを定義する必要があります。を参照してください "Kubernetes のドキュメント" kubeconfigファイルの作成については、を参照してください。

クレデンシャルを削除する

アカウントからのクレデンシャルの削除はいつでも実行できます。クレデンシャルは、のあとに削除してください "関連するすべてのクラスタの管理を解除します"。

Astra Control Center は、 Astra Control Center の認証情報を使用してバックアップバケットに認証するため、 Astra Control Center に追加する最初の資格情報セットは常に使用されています。これらのクレデンシャルは削除しないことを推奨します。

手順

1. 「 * アカウント * 」を選択します。
2. [*Credentials] タブを選択します。
3. 削除するクレデンシャルの [状態 *] 列で [オプション] メニューを選択します。
4. 「 * 削除」を選択します。
5. 削除を確認するために「削除」と入力し、「はい」、「認証情報を削除」を選択します。

結果

Astra Control Center は、アカウントから資格情報を削除します。

アカウントのアクティビティを監視

Astra Control アカウントのアクティビティの詳細を表示できます。たとえば、新しいユーザを招待したとき、クラスタが追加されたとき、 Snapshot が作成されたときなどです。アカウントアクティビティを CSV ファイルにエクスポートすることもできます。

KubernetesクラスタをAstra Controlから管理し、Astra ControlをCloud Insights に接続した場合、Astra ControlはCloud Insights にイベントログを送信する。ポッドの導入やPVCの添付ファイルに関する情報などのログ情報が、Astra Control Activityログに記録されます。この情報を使用して、管理しているKubernetesクラスタの問題を特定します。

Astra Control のアカウントアクティビティをすべて表示

1. 「 * Activity * 」を選択します。
2. フィルタを使用してアクティビティのリストを絞り込むか、検索ボックスを使用して探しているものを正確に検索します。
3. アカウントアクティビティを CSV ファイルにダウンロードするには、「 * CSV にエクスポート」を選択します。

特定のアプリケーションのアカウントアクティビティを表示します

1. 「 * アプリケーション」を選択し、アプリケーションの名前を選択します。
2. 「 * Activity * 」を選択します。

クラスタのアカウントアクティビティを表示します

1. 「 * クラスタ」を選択し、クラスタの名前を選択します。
2. 「 * Activity * 」を選択します。

対応が必要なイベントを解決するための操作を実行します

1. 「 * Activity * 」を選択します。
2. 注意が必要なイベントを選択してください。

3. [**Take action**] ドロップダウンオプションを選択します。

   このリストから、実行できる対処方法のほか、問題 に関するドキュメントを参照したり、問題 の解決に役立つサポートを受けたりできます。

既存のライセンスを更新する

評価用ライセンスをフルライセンスに変換したり、既存の評価用ライセンスまたはフルライセンスを新しいライセンスで更新したりできます。フルライセンスがない場合は、ネットアップの営業担当者に連絡して、ライセンスとシリアル番号の全文を入手してください。Astra Control Center UIまたはを使用できます "Astra Control API の略" 既存のライセンスを更新します。

手順

1. にログインします "NetApp Support Site"。
2. Astra Control Center のダウンロードページにアクセスし、シリアル番号を入力して、ネットアップライセンスファイル（ NLF ）をダウンロードする。
3. Astra Control Center UI にログインします。
4. 左側のナビゲーションから、 * アカウント * > * ライセンス * を選択します。
5. [**Account**>*License*] ページで、既存のライセンスのステータスドロップダウンメニューを選択し、[**Replace**] を選択します。
6. ダウンロードしたライセンスファイルを参照します。
7. 「 * 追加」を選択します。

[**Account**>*Licenses*] ページには、ライセンス情報、有効期限、ライセンスシリアル番号、アカウント ID 、および使用されている CPU ユニットが表示されます。

を参照してください。

- "Astra Control Center のライセンス"

著作権に関する情報

商標に関する情報